

やまぎん

アジアニュース

経済月報
No. 497 掲載分
平成 28 年 9 月

●釜山支店Tel010-82-51-462-3281 ●青島支店Tel010-86-532-85766222 ●大連支店Tel010-86-411-83705288
●香港駐在員事務所Tel010-852-2521-7194



【青島支店】

「中国で驚くべき成長を遂げているメッセージアプリ～お金をどうやって支払うか～」

1. はじめに

中国人は、日本人からみると驚くほどに、携帯電話を利用しています。現在一般の家庭で固定電話のある家庭はあまりありません。

歩きながら、またバスや電車の中で、ところ構わずに携帯電話を使っています。特に驚かされることは、仕事でも個人携帯を頻繁に利用していることです。日本ではありませんが、官公庁からは連絡先にメッセージアプリである「We Chat」や「QQ」（日本のLINEのようなもの）の登録を要求されます。銀行も例外ではなく、中国人民銀行や銀監会（日本の日銀や金融庁に相当）も同様です。新聞も紙媒体で読む人が少ない中国人にとっては、特に都市部を中心に、携帯電話は手放せない生活の一部になっています。

2. メッセージアプリの使い方

ここで、中国で一番利用されているアプリの利用方法をご紹介します。

日本で買い物をする場合、ほとんどの人が現金かクレジットカードを使いますが、中国は違います。

友人、あるいは、会社の仲間との食事会で割り勘にする場合、特に若い世代を中心に中国では、現金を払わずに、アプリを利用して幹事にお金を送ります。互いの携帯電話に「QR」コードを送ると支払いを割り勘にすることができます。受信した側は、携帯をタップすれば、自動的に負担金額が携帯電話に取り組みされる仕組み（各自の割り勘金額を受け取れる。）です。どんな時間帯でも可能です。

映画の前売券を格安で購入し、宴会を予約した際には割引クーポンを購入、帰りのタクシーも予約。これらをすべて、一つのアプリですべて完結させることが可能です。このほかに、果物屋、コンビニ、飲食店、スーパー、旅行代金、携帯電話のチャージと、生活のほとんどのシーンでお金を支払うことが可能で、多くの人々が利用し、どんどん普及しています。外出する際には、携帯さえあればキャッシュカードや現金を持っていなくても、困ることはありません。中国では、偽札が多く流通しているとも言われています。アプリを使ってお金を移動すれば、偽札をつかむこともありません。モバイルコマースを自己完結できるアプリと言われていています。その代表的なアプリが、「We Chat」（We

Chat payment) です。アプリには、「LINE」のようなメッセージを送る代表的な機能の他に、ニュースや金融、交通情報、天気予報などあらゆる情報入手や決済、アプリ同士の無料電話まで可能です。単に若者だけでなく、幅広い世代の日常の生活に溶け込んでいます。

旧正月に中国では紅包（日本でいうお年玉）を送る習慣があります。赤い封筒に現金を入れて贈りますが、2014年にはアプリを使ったデジタル紅包が登場しました。あるTV番組で、メッセージアプリ「We Chat」を利用している人に対して紅包を配ったのがきっかけになり、「WeChat Payment」は認知され、急激に普及し始めました。アプリを使って、簡単にお金のやりとりができる、「便利だ!」ということになったのです。

2014年旧正月には約500万人が2000万個のデジタル紅包を交換しましたが、翌年2015年には一気に10億個の紅包が交換されました。そして2016年には、なんと80億個以上の紅包が交換されました。

3. 中国のモバイル決済事情

中国の消費者はモバイル・ファーストです。アメリカでは、モバイルで検索したものをPCで購入するのがトレンドですが、中国ではその逆で、PCで検索したものをモバイルで購入するそうです。

中国のモバイルコマース市場は、モバイルでの購買がアメリカの450%に達しています。あるマーケティング調査によると、2015年度、中国のモバイルを通じた支出は同国eコマースの約50%、2019年にはオンライン小売での取引の75%（同年アメリカでは28%の予想）がモバイルコマースになるとも予測されています。

中国モバイル決済市場は、中国「Alibaba Group」の関連金融サービス事業が手掛けている「Alipay」と、中国Tencent Holdingsの「We Chat」が大部分を占めています。買い物ができるコンビニや飲食店、衣料品店でこの2つの支払いが可能なマークを見ない店舗はほとんどありません。中国人観光客で賑わう日本でも、この二つのアプリで支払いが可能な場所は少しずつ増えています。携帯の「QR」コードをかざし、店舗側がタブレット端末で読み込めば支払いは完了します。ナイキや、スターバックス、コカコーラ、マクドナルド、その他各国のハイブランドまでもが、「We Chat」のユーザーを取り込もうと懸命です。愛着の強い多くのユーザーはデータの宝となるからです。中国大手銀行のATMにもいくつかの「QR」コードが表示されています。

中国国内では日本のようにクレジットカードの利用はあまり普及しておらず、スーパーや衣料品店では多くの人が、キャッシュカードで支払いをしています。日本でももうすっかり認知されている「銀連カード」（中国国内発行枚数55億枚）です。銀連カードは支払う際にサインが必要ですが、アプリを使えばサインの必要はありません。30秒で支払いを完了することが出来ます。合理的な考え方が強い中国では、簡単、便利なアプリが徐々に勢力を強めています。便利さを追う一方で、日本と同様、中国でも電子詐欺の事故は増える一方です。アプリに登録する銀行カードには、あまり多くのお金を入金しないことも大事です。

4. 終わりに

いま日本で一番ユーザー数の多いメッセージアプリは「LINE」です。日本ではなかなかモバイル決済が浸透しませんが、「LINE」もモバイル決済に力を入れていくと表明したばかりです。4年後、東京オリンピックが開催される時には、多くの外国人観光客、特に中国からはどっと押し寄せそうです。その時には日本でも、多くのお店でモバイル決済が可能となり、現金やキャッシュカードを持たずに、携帯だけ持って出かけられる日が来ているかもしれません。世界は確実にキャッシュレスに向かっていると言えます。現金からキャッシュカード、携帯アプリへとお金の使い方は、今、大きく変わろうとしています。人口の多い中国で流れが変わると一気に普及しそうです。もう、携帯アプリだとあなどれなくなっています。

山口銀行青島支店では、多くの日系企業の進出のお手伝いをしております。進出を検討されている方は、是非、お気軽にご相談下さい。

以 上